

子どもの「やる気スイッチ」を押すのは・・・

恵那市立中野方小学校長 藤井 志保

ある子の話です。その子は、前から算数が苦手で、あまり好きではありませんでした。問題も思うように解くことができず、いつも算数の時間は憂鬱でした。それでも、先生や周りの仲間が一生懸命教えてくれて、少しずつ自分の力で解くことができるようになり、答えを導き出す楽しさが分かるようになってきました。もっと分かるようになりたいとおうちの人に算数の問題集を買ってもらい、自主学習でも算数の問題に取り組み、どんどん正解を導き出すことができるようになりました。そして、学年末の算数のテストで100点を取ることができ、笑顔で喜ぶ姿が見られました。

6年生の話です。6年生になり1か月が過ぎた頃、4月から今日までの自分たちの姿について、よいところと改善しなければいけないところを話し合いました。よいところについての意見は、全校のために考えて動いているといった内容が多く出ました。改善しなければいけないところについての意見は、ほとんど授業に関する内容でした。まずは、自分たちの授業に対する姿勢から改善していかなければ、下級生の子たちの手本になることができないと気付いた6年生は、自分たちで授業改善大作戦を考えました。その第一弾として、『授業中の私語を0（ゼロ）にしようキャンペーン』を実施することとなりました。毎時間、自分たちで評価すると甘くなってしまうからと、担任や教科担任の先生に評価をお願いすることにしました。現在、キャンペーンを始めて1週間。授業中、個人で取り組む時間では、私語が全くなく集中して取り組んでいるのがよく分かります。

全校の話です。先日、恵那北中学校にて、中野方小、飯地小、恵那北小、恵那北中の子どもたちとポーランドジャズトリオとの交流イベントが行われました。中野方小からは5・6年生が参加しました。各学校からの学校紹介の時間があり、中野方小5・6年生は、手話を付けて校歌を歌うことにしました。しかし、手話に集中すると歌声がうまく出なかったり、歌に集中すると手話がうまくできなかったりしました。そこで、歌については、あらかじめ録音した歌を流し、手話に集中できるように工夫することにしました。せっかくなら全校で歌っているところを録音しようということになり、朝活動が終わった後、全校が音楽室に集まりました。担当の先生から

「5・6年生が全校の代表として恵那北中で手話付きの校歌を歌うこと。」「手話に集中できるように本番はこれから録音する校歌を流すこと。」「録音した歌で5・6年生が手話に集中できるように、今から一人一人が大きな声で校歌を歌ってほしいこと。」という説明がありました。

もちろん、録音は一発OK。朝から音楽室に元気の出るとても大きな声の校歌が響きました。

どの子にも「やる気スイッチ」があります。そのスイッチは、自分自身でしか押すことはできません。でも、「やる気スイッチ」があることを教えてあげたり、「やる気スイッチ」を押したいと思えるように励ましたりすることは、周りの仲間や私たち大人でもできます。

苦手だけど挑戦してみたいと思ったり、自分たちで自分たちの生活をよりよくしようと自治能力を発揮したり、誰かの笑顔のために自分に気合いを入れて動いたりする姿など、「やる気スイッチ」を押した子どもたちの姿をこれからも応援していきたいです。

